

## 令和7年度 第2回上田市総合教育会議 会議概要

1 会議名	令和7年度 第2回上田市総合教育会議
2 日 時	令和7年11月7日 午後1時30分から午後3時45分まで
3 会 場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出 席 者	土屋陽一上田市長、酒井秀樹教育長、 安達永眞教育委員、木口博文教育委員、萱津公子教育委員、荻野茶々教育委員
5 市側出席者	大矢政策企画部長、池田教育次長ほか別紙名簿のとおり
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 · 一部公開 · 非公開
7 傍聴者	2人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	令和7年11月26日

### 協議事項等

1 開会（大矢政策企画部長）

2 市長あいさつ（土屋市長）

3 教育長あいさつ（酒井教育長）

4 会議事項

（1）上田市教育大綱（改訂案）について

- ・資料1-1及び資料1-2に沿い、政策企画課長から改訂内容について説明
- ・以降、協議

○「学校教育」を「子ども教育」という表記に変更することについて

（委員）考え方は理解できるが、項目名の変更はあくまでも中身の変更に伴つてするものであり、今回の改訂内容であれば変更しない方が良いのではないか。行政内部の所管についても気を付ける必要がある。

また、現場にいた経験からも、大綱の組み立てが変わると現場の指導内容にも影響してくるので対応が大変である。

（委員）教育大綱は上田市の方針を対外的に示すひとつのメッセージになるものだと思う。

「学校教育」となっていると、学校に通えていない子どもはどこへ相談したらいいのかという声を聞くことがある。

子どもの学び場が学校だけではないとする方向に向かっている中で、言葉を変更することも大事なことだと思うので、「子ども教育」という表現を使ってほしい。

（委員）子どもたちを大切にすることはとても重要で、子ども教育は大事なことである。

親の立場からすると、学校教育でも子ども教育でも、親が含まれていないと感じる人もいるため、「教育」のみにしても良いのではないか。海外では子どもや親という区分を明記していないことが多い。（education等）

（委員）子どもの教育について、これまでの学校での教育が大部分を占めていた時代から、地域で子どもを育てる時代に大きく変わってきている。「学校教育」のままだと学校での教育に限定された印象。もう少し大きな視点で捉える市の大綱であってほしい。

（教育長）現場からすると各分野でどのようなことができるかという考え方をするため、施策を軸にした分類の方が分かりやすい。「子ども教育」としたときに現場で混乱が生じないか心配である。

内容に関しては、多様なニーズのある子どもたちに対して、その求めに応じた施策を各分野でしっかりと考えていかなければならないという大きな課題をいただいたように感じた。これらを踏まえて、大綱をまとめていけたらと思う。

（市長）学校だけが学びの場ではなくなってきているということは確かにあるため、「子ども教育」という表現は必要な視点だと思う。

国でも子ども家庭庁が組織されたりしてきたことも踏まえると、「子ども・学校教育」のように併記することも良いのではないか。

（委員）強いこだわりがあるわけではないが、大綱の中身が充実してきたところで項目名も変

更すべきだと考える。今回の改訂内容だと、「子ども教育」にするほどの変更はないのではないかと少し疑問が残る。子どもの学びの場として、学校だけでなく地域で育てるという考え方は賛成である。

(事務局) 今後、パブリックコメントも実施していく段階というところで、今回のご意見に加え、パブリックコメントでいただく意見も踏まえて、結論を出したい。

○その他意見

(委員) 横文字はなるべく減らし、誰にでも分かりやすい表現を用いてほしい。

毎年300人の小中学生が減少していく状況において、この視点も大綱や支援プランに記載した方が良いのではないか。

(事務局) 「はじめに」の部分で記載していく等、検討したい。

(委員) 日本人の人口は減っているが世界的にはまだTOP10に入る人口である。

外国人の視点から見たときに、今後、日本でハーフの子どもや外国人の子どもが増えることが考えられるので、そのような視点も大事だと思う。

(事務局) 総合計画の中でも人口減少については触れている。大綱の中でも「はじめに」で触れる等、検討したい。

(2) 第4期上田市教育支援プラン（案）について

- ・資料2に沿い、学校教育課長から内容説明
- ・以降、協議

(委員) 基本施策1の中で支援策1と支援策2に分かれているが、内容を見ると似ている箇所が多い。どのような視点で区分しているか。

(事務局) 支援策1は学力の定着やそのための指導方法、支援策2は取り組む姿勢の成長や学習意欲が高まる授業づくりという視点で区分している。

(委員) どちらも授業づくりというところで教職員の研修が必要になってくるのではないか。国でも非認知能力について触れることが多くなってきているので、支援策2の方がより重要になってくるのではないかと感じた。

(事務局) ご意見を踏まえて、記載内容について精査したい。

(委員) 自己肯定感の定義を上田市独自に決められないか。

(事務局) 気持ちの部分は個人差があり難しいところであるが、アンケートの中で自己肯定感の質問があり、上田市は高水準である。今後も、自己肯定感の高い子どもが増えるような授業づくり等を心がけていきたい。

(教育長) 自己肯定感については、自分はありのままでいいという自分らしさと、集団・社会の役に立っていると感じられるという2つの視点がある。日本は外国と比較して自己肯定感が低く、民族的なことも要因だと思う。そういったところも差し引いて考えていかなければと思う。

(委員) 基本施策1に、教職員の働き甲斐を向上させるといった表現も追加してほしい。子どもの学習環境の向上にもつながると思う。

(事務局) 大事な視点だと思うので、盛り込むよう検討したい。

(委員) 基本施策4に、だれ一人取り残さないといった表現も追加してほしい。

(事務局) 多様性の考え方と一致するため明記していきたい。

(市長) 基本施策5の支援策13の中で、植林体験について追加してほしい。

(事務局) 表現として盛り込めるか検討したい。

(委員) 基本施策5の支援策12で、地域で子どもを育てるというような表現も追記してほしい。

(事務局) 地域と連携・協働という表現で記載してあるが、もう少し強い表現で記載できないか検討したい。

(委員) 植林の話で、武石地域で山火事がったが、減った木を戻すために植樹するという視点の教育も大事だと思う。

(事務局) 自然教育という観点は大事だと思うので、支援策にどう落とし込むか検討したい。

(委員) 山が土砂崩れしないのは木があるから等、防災教育の中に木の必要性なども触れられれば良いのではないか。山国である信州でしっかり教育することは必要だと思う。

(教育長) 何々教育というのが既に多く盛り込まれているため、学校がパンクしてしまう懸念もある。ご意見いただいた部分について、地域性や適時性も踏まえて検討するということをご理解いただきたい。

### (3) 部活動地域展開について

- ・資料3に沿い、学校教育課長から説明
- ・以降、協議

(市長) 登録はしないが団体一覧に掲載を希望する団体とはどういうものか。

(事務局) 地域クラブの登録には、規約の作成や予算決算の作成などが必要になってくる。そこまでの手続きは大変なので登録はしないが、中学生を受け入れることはできるという団体を一覧に掲載して紹介するものである。

(委員) 地域クラブ登録のハードルが高いという声を聞く。書類作成等の事務的な負担が大きいため、事務経費に係る支援がないと地域クラブは増えないのではないか。また、登録団体以外にもある程度の支援が必要だと思う。地域で子どもを育てるということにもつながってくると思うのでぜひ検討していただきたい。

(事務局) 理想としては会費等で運営してもらえばと考えているが、具体的な支援内容については引き続き検討していきたい。

(委員) 塩田中では、平日の1時間程度しか活動していない部活参加者が70人くらいいるが、そういう子たちの受け皿の見通しが立たない状況だと思う。放課後の居場所が失われるという危機感があるので、そういったところへのアプローチも今後検討してほしい。

(事務局) 地域展開については、3パターンのクラブ化を想定している。お子さんが自分の望む活動ができるような体制を作れるよう準備していきたい。

(委員) 一覧での団体紹介だけだと、事故があったりしたときの責任が取れるのか心配である。最低限、中学生を守れるような基準などの検討が必要ではないか。また、送迎について公の支援があるのかといったところも、募集の段階で説明が必要ではないか。

(事務局) 受け入れ可能団体に対して保険の加入を促す等、検討していきたい。送迎については、登録の申請をいただいた内容を見る中で、市としてどのような支援ができるか研究していきたい。

(委員) 中学生にとって部活動は大きなエネルギー源だと思う。日本の文化を支える大きな役割を果たしてきたのも部活動だと思うので、地域展開がいいものになるよう頑張ってほしい。

### (4) オープンドアスクールについて

- ・資料4に沿い、学校教育課長から説明
- ・以降、協議

(委員) コンセプトに賛成である。学ぶことを通して新しい自分と出会い、自分の世界が広がり、社会が広がる。これは教育の本質だと思う。オープンドアスクールが、そんな場になってくれると期待している。積極的に進めていただきたい。

(委員) コンセプトに沿って早く実現してほしい。ただ、今ある学校を否定するような表現にはならないよう配慮が必要だと感じた。

(委員) 現在の学校もとてもいい。それでもなじめずに学校に行かれない子もいると思うので、そういった子がオープンドアスクールを拠り所にできるといい。オープンドアスクールでは、まずありのままを受け入れる。そこから普通の学校に戻りたい人が出てくるかもしれない。

(委 員) ここまで検討に感謝している。新たに建物を作るより、既存の建物を改修してという方法が良いと思う。定員まで人が集まらないことも想定される。また、予算的なことも慎重に検討していただきたい。

5 その他

- ・市民意見募集（パブリックコメント）：11月17日から12月22日まで実施予定
- ・第3回会議：令和8年1月27日に開催予定

6 閉会（大矢政策企画部長）